

「古墳時代初頭のムラ」^{かみぶんにし}上分西遺跡

4年目となる今回の調査は、上層遺構と下層遺構に分けて行いました。

上層遺構では古代(平安時代11世紀)と中世(室町時代15世紀)の総柱建物や側柱建物などの掘立柱建物が見つかりました。昨年度までの調査とあわせて考えると、本遺跡では古代末から中世において小規模ながら人々の生活が営まれていたことがわかりました。

下層遺構では古墳時代初頭(3世紀)を中心とした時期の遺構が見つかりました。調査区を蛇行しながら貫流する幅約4mの自然流路からは、たくさんの古式土師器とともに青銅製の矢じりが見つっています。そ

して自然流路のほりでは直径約4m^{しめうせき}の集石遺構が見つかりました。集石遺構では約20cm前後の円礫を盛り上げるように積み重ねており、石と石の間には完形に近い古式土師器が多量に廃棄されていました。こうした出土状況は、集石と土器廃棄を伴うマツリが水辺で行われていたことを表しています。さらに自然流路周辺では4棟の竪穴住居が見つかり、昨年度までの調査成果を含めると10棟の竪穴住居が見つかったこととなります。以上の調査成果から今までよくわかっていなかった愛媛県の東端に営まれた古墳時代初頭のムラの様子がわかってきました。



集石遺構

「古代官人のくらしと中世集落」^{かみぶんのりやす}上分乗安遺跡

今回の調査では奈良時代を中心として7世紀から8世紀にかけての竪穴住居や掘立柱建物が^{えん}見つかり、円面硯や土馬、刀子、土錘などが出土しました。特に円面硯や刀子の出土は識字階層(字の読み書きができる人)の存在を裏付けることができます。また愛媛県で5例目となる土馬の出土からは遺跡内で律令祭祀が行われていたことが想定できます。これらのことから本遺跡では、古代宇摩郡の役人である官人が住んでいた可能性が考えられます。また遺跡周辺には古代宇摩郡の官衙関連施設が存在している可能性も充分指摘することができます。方形竪穴住居SI-208では、良好な残存状態のカマドが見つかりました。元の形が良く残っているカマドの本体には、当時使われていた甑と甕が残っており、カマドの煙道部は土師器の甕を利用して作られていました。こうした調査成果は古代官人のくらしを知るだけでなく、カマドや竪穴住居の構造を知るうえでも貴重な資料となります。

また、約800口に及ぶ掘立柱建物の柱穴や十瓶窯系須恵質甕が見つかった礫敷き火葬墓など、鎌倉時代前半(12世紀後半から13世紀代)の遺構もたくさん見つかりました。和泉型瓦器をはじめ、白磁や青磁なども出土していることから比較的規模の大きい中世集落が展開していたものと考えられます。



竪穴住居のカマド

「弥生時代前期の土器と石器」成福寺VII遺跡

成福寺VII遺跡は西条市楠に所在し、世田山から道前平野にむけてのびる丘陵の先端部分に位置します。調査では、弥生時代前期(今から約2,200年前)の溝や土坑(素掘りの穴)が見つかりました。

溝は、幅約0.9m、深さ約0.24mあり、約5.5mの長さで確認されました。また、土坑は1.4~1.7m四方で、深さ0.3~0.5mとほぼ同じような規模をした隅の丸い四角形のものが2つ見つかりました。これらの溝や土坑の中からは、土器や石器がまとめて発見されました。

注目される遺物では、磨製石剣とよばれる石製の剣が見つかりました。頁岩とみられる石を磨いて



遺跡全景

作られており、折れた剣先の部分だけが出土しました。磨製石剣は、弥生時代になって朝鮮半島から新たにもたらされた石器です。また墓に副葬されたり、人々が生活するムラから離れた丘陵などに埋められたものも知られ、石剣を持っていることや使用することに特別な意味があったと考えられています。石剣の出土は、そのような進んだ文化を受け入れた人たちがこの地域に暮らしていたことを示しています。

道前平野北部で、弥生時代前期の土器が遺跡からまとめて見つかったのは初めてで、成福寺VII遺跡は、この地域で弥生時代はじめごろに人が活動していたことを示す重要な遺跡であることがわかりました。

「道前平野北部の葬送のすがた」成福寺3・4号墳

成福寺3・4号墳は西条市実報寺・楠に所在し、世田山からのびる尾根上標高52~58mに位置します。調査の結果、古墳時代前半期(今から約1,600年前)の4号墳と古墳時代前半期の可能性のある3号墳の2基の古墳が見つかりました。

4号墳は直径約10~14mの円墳で、周溝(古墳の周りの溝)がめぐっています。周溝の中には、あとから落ち込んだと考えられる石がたくさん見られたことから、これらの石が墳丘の裾に葎かれていたと推定できます。古墳に供えられていた古墳時代前半期の土師器の壺と鉢が、石と一緒に出土しました。埋葬は、土坑墓とよばれる素掘りの穴に行われていました。

3号墳は、周溝の形から方墳であった可能性が考えられます。箱式石棺とよばれる石を組んだ棺に埋葬



4号墳全景

が行われていました。古墳時代後半期になると、古墳には横穴式石室とよばれる追葬のための出入り口のある石室がつけられ、須恵器が副葬されるようになります。3号墳は、周溝から1点土師器が出土し、須恵器はともなわないと考えられることなどから、古墳時代前半期の可能性があります。

道前平野北部では、世田山古墳群や黒岩山古墳群など横穴式石室をもつ古墳はいくつか知られていますが、それ以前の様子は不明な点が多く、今回の調査で古墳時代前半期の貴重な資料が得られました。

「古墳時代のくらし」長網遺跡9区

長網I遺跡は、西条市実報寺に所在し、道前平野北部に位置します。発掘調査の結果、古墳時代後期(今から約1,400年前)の竪穴住居2棟と掘立柱建物1棟などが見つかりました。

竪穴住居は地面を四角く掘りくぼめ、4本の柱で屋根をささえ、壁にカマドがつくり付けられていました。そのうち1棟のカマドは残りがよく、使われていたときのようすがよくわかりました。また、カマドのまわりからは、たくさんの須恵器や土師器が出土しました。須恵器の蓋のついた坏や吊り手の付いた瓶(提瓶)、土師器の甕などの器を使って生活していたようすがわかります。遺物から、2棟の竪穴住居の時期は6世紀後半と考えられます。

掘立柱建物は、柱穴を掘り何本かの柱を組み合わせて建てられた建物です。調査では、東西に3本、南北に3本の柱が確認され、東西2間(約6m)×南北2間(約4.3m)の建物であると考えられます。この掘立柱建物は、竪穴住居と重なって見つかりました。建物の重なり方からみると、竪穴住居が埋まったあと、掘立柱建物が建てられたことがわかりました。

今回調査した9区で、平成11年度から行われてきた長網遺跡の全発掘調査が終了し、道前平野北部にひろがる古墳時代後期のムラの様子が明らかになりました。



カマドが見つかった竪穴住居

「捨てられた道具」高橋佐夜ノ谷遺跡2次・神宮太郎丸遺跡

高橋佐夜ノ谷遺跡は今治平野の西南部に広がる日高丘陵に形成された開析谷(標高21m)に立地しています。谷口の多々羅という地名が示すとおり、調査区の西隣では古代の製鉄炉が検出されています。今回の調査では自然流路7条を検出しました。調査区内の地形は北東から南西に向かって傾斜しており、流路はこの地形に沿って大きく蛇行しています。

自然流路からは、縄文時代後期～古墳時代後期までの各時代の土器や石器が出土していますが、特に弥生時代中期末～後期初頭の遺物が多量に出土しています。これらの中には完形の壺が数点含まれており、壺の体部や底部には焼成後の穿孔が確認できます。また木製容器(槽=クスノキ製)なども出土しています。

神宮太郎丸遺跡は今治市の西側、高縄山系から延びる舌状丘陵の裾部(標高26m)に位置しています。調査の結果、弥生時代終末期の自然流路と中世の掘立柱建物を検出しました。遺物は、縄文時代後期から中世にかけてのものが出土しています。



弥生土器の出土状況

「弥生のイエ」別名寺谷I遺跡

別名寺谷I遺跡は、今治平野北西部の低丘陵で挟まれた谷奥部に位置しています。昨年度に引き続き行われた発掘調査では、弥生時代から平安時代の遺構・遺物を発見しました。

弥生時代の遺物で注目されるのは絵画土器です。「高杯」という盛りつけ用の器に、2棟の建物が描かれていました。そのうちの1棟は壁が表現されており、全国的にも極めて珍しい資料です。

奈良時代から平安時代では、柱穴や井戸のほか、鉄製品をつくるための鍛冶炉が見つかりました。鍛冶炉は高熱により赤く変色して硬くなっていました。すぐそばには庇を持つ掘立柱建物が1棟建て



掘立柱建物

られ、工房もしくは鍛冶を管理する役人の住まいと考えられます。さらにその周辺には、須恵器や土師器をはじめ、黒色土器碗や緑釉陶器、瓦などが見られる土器溜まりも見つかりました。

そのほか、須恵器蓋を硯に転用したものや、底面に墨で文字が書かれた土師器などの文字に関する資料、鞆羽口(炉に風を送る管)などの鉄生産に関する遺物が見つかることから、当時、この谷には鉄を管理する役人がいた可能性が考えられます。また、隣の谷(別名端谷I遺跡)でも同じような鍛冶炉や銅印が見つかっており、両遺跡の関係も今後注目されます。

「古墳時代前期の首長墳」別名一本松古墳

別名一本松古墳は、今治平野北西部の丘陵頂上部に位置しています。これまでの確認調査で銅鏡や鉄剣などが見つかり、地元では古くから古墳として知られていました。

古墳は一部削られ、全体の形は判断しづらいますが、地山を削ったり、部分的に盛土をして形作られていることが分かりました。上から見ると、ややいびつな鍵穴の形をした前方後円墳と呼ばれるお墓で、古墳の長さはおよそ30mあります。



調査区遠景

死者は段を持って掘られた墓穴に葬られており、2つが円丘頂部に並んで配置されています。墓穴の床面には赤色の顔料がまかれていました。墓穴から見つかった遺物としては、銅鏡2面(神獸鏡・内行花文鏡)、鉄剣、土師器壺、ガラス小玉、管玉などが見つかります。また、遺物は南側に銅鏡・鉄製品、両脇に玉製品が置かれていることから、手首(腕)にアクセサリを装い、頭を南東に向けて葬られたものと考えられます。

出土した遺物からみて、別名一本松古墳は古墳時代前期(4世紀後半から5世紀初頭)の有力者のお墓と考えられます。県内でも不明な部分が多い時期だけに、今後の検討が期待されます。

「中世集落のすがた」馬越和多地遺跡2次

馬越和多地遺跡2次調査地は、浅川・蒼社川・頓田川の主要河川によって形成された今治平野の西北部に位置しています。本遺跡のすぐ西側には、県の史跡である鯨山古墳や、1999年に今治市教育委員会が発掘調査を行った馬越和多地遺跡1次調査が存在しています。

本遺跡の発掘調査では、中世の掘立柱建物1棟をはじめ、土坑14基や溝30条、井戸7基、柱穴・小穴508口などの遺構が検出されました。掘立柱建物は、建物の北側が調査区外へ伸びている状況であるため全容は不明ですが、検出規模から2間×4間以上の建物を想定することができます。

遺物は、12～14世紀を中心とした土師器、須恵器などの煮炊きや貯蔵に用いたやきもの、県外から運ばれてきた備前焼や瓦器なども出土しました。このほかにも多種多様な陶磁器が数多く出土しているとともに、14世紀以降の資料の中には、少数ながら天目茶碗や茶釜の破片が出土していることから、本遺跡は一般的な農村集落とは考えにくく、上級層の人たちの生活空間であったことがうかがえます。

今回の調査で確認された遺構・遺物は、馬越和多地遺跡1次調査の資料ともほぼ一致しており、同時期の集落が鯨山丘陵東側の馬越周辺に存在し、それが比較的広範囲に及んでいる可能性も考えられます。



第4区の完掘状況

「領主屋敷？」経田遺跡

本遺跡は南に鷹取山、東に笠松山、北の霊仙山に囲まれた朝倉谷のほぼ中央部に位置し、朝倉谷を流れる頓田川中流の左岸の河岸段丘上で頓田川と番川に挟まれた場所に立地しています。発掘調査では、弥生時代・古代・中世(室町時代)の遺構・遺物を多数発見しました。

古代では、数棟の掘立柱建物や遺構が見つかり、この建物の中には布掘りを有するものや総柱のものも含まれ、遺物は須恵器や土師器をはじめ、赤色塗彩土師器や硯、瓦片が見つっています。

中世では、各時期ごとの変遷がたどられ、新しい時代の建物ほど低い場所に建てられています。低い場所では「コ」字形の区画溝とその内側に多数の柱穴や土坑が見つかり、何度か建物が建て替えられています。出土品は質量ともに豊富で、15世紀後半頃には備前焼や常滑焼などのほかに地元で製作されたさまざまな形の土釜や土鍋・土師器の杯等が多数見つっています。この遺跡は16世紀前半頃に大規模な洪水で埋没しています。



遺構検出状況

「大森氏の足跡」千足遺跡2次

千足遺跡は、砥部町内を流れる砥部川右岸の河岸段丘上(標高約76～77m)に位置します。

発掘調査は平成16・17年度に行い、掘立柱建物4棟・土坑51基・溝11条・石列1条・自然流路1条・柱穴及び小穴871口・不明遺構2基を検出しました。なかでも、1区北側から2区にかけて検出した溝状遺構は、南北に長さ約56mを測り、おおよそ半町の規模があります。さらに、その半分の約28m付近には、両側を溝で区画した幅約2mの道路状遺構の可能性をもつ遺構が西へ延びていることから、半町を



2区の完掘状況

単位とする区画溝の可能性が考えられます。出土遺物は大多数が中世の遺物であり、煮沸具である土釜や土鍋に対し、供膳具である土師器杯・皿が全体の約8割を占めています。このことから、調査地は集落において日常生活を営む領域ではない施設の周辺であったと考えられます。また、出土した遺物はほぼ13世紀末～14世紀中葉の間に収まります。この時期、千足周辺は「承久の乱」(1221年)の功績により、鎌倉幕府御家人であった大森氏に与えられ、同氏が所領していたと推測されており、遺構の検出状況等から、大森氏に関係する人物の居館があった可能性があります。

「運ばれてきた黒曜石」猿川西ノ森遺跡

猿川西ノ森遺跡は、旧北条市内を流れる立岩川中流左岸の河岸段丘上に位置しています。発掘調査では、縄文時代早期から中世にかけての遺構や遺物を発見しました。特に縄文時代の遺物は、質・量ともに充実しており、早期では、土器の内外面に山形や楕円の文様を施した押型文土器がまとまって出土しています。旧北条市ではマス池遺跡に次いで2例目の資料であり、残存する土器の破片も大きく、いくつかの型式分類も可能な資料群であることから、斎灘沿岸地域における縄文時代早期中葉の土器文化を研究する上で重要な資料となります。

また、後期から晩期の遺構では、小穴や土坑のほかに集石遺構も検出され、遺物では磨消縄文や沈線



黒曜石の出土状況

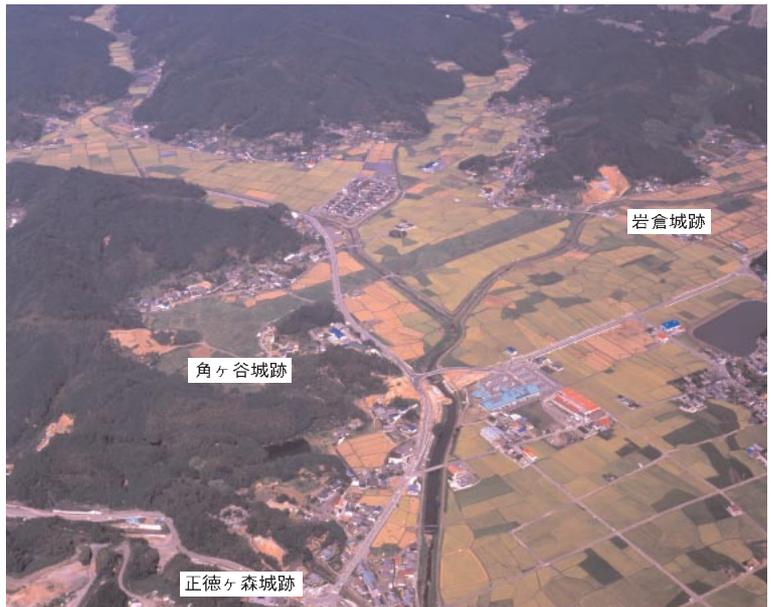
で模様を描いた深鉢、口縁部に刻目のある突帯文を貼り付けた土器などが出土しています。なかでも注目する資料の一つとして、拳大ほどの黒曜石が発見されました。その当時の黒曜石は石器を作る材料として貴重なものであり、本遺跡からは、これを用いて作られた石鏃も確認されています。この黒曜石を科学的に分析した結果、ここから遠く離れた島根県の隠岐から、海や山を越えて運ばれてきたことがわかりました。当時の人やモノの動き、そして地域間の交流を考える上で貴重な資料といえます。

「南予の戦乱」^{しょうとくがもり} 正徳ヶ森城・^{いわくら} 岩倉城跡・^{かくがたに} 角ヶ谷城跡・^{ちょうしょうじ} 長松寺城跡

正徳ヶ森城跡・岩倉城跡・角ヶ谷城跡は三間盆地南部に発達した小起伏丘陵に位置し、長松寺城跡は旧宇和島市を南北に流れる来村川中流域に位置しています。正徳ヶ森城跡・角ヶ谷城跡については調査した範囲が狭く、全体の様相はよくわかりませんが、長松寺城跡・岩倉城跡では中世(15～16世紀)の城郭跡を発見しました。

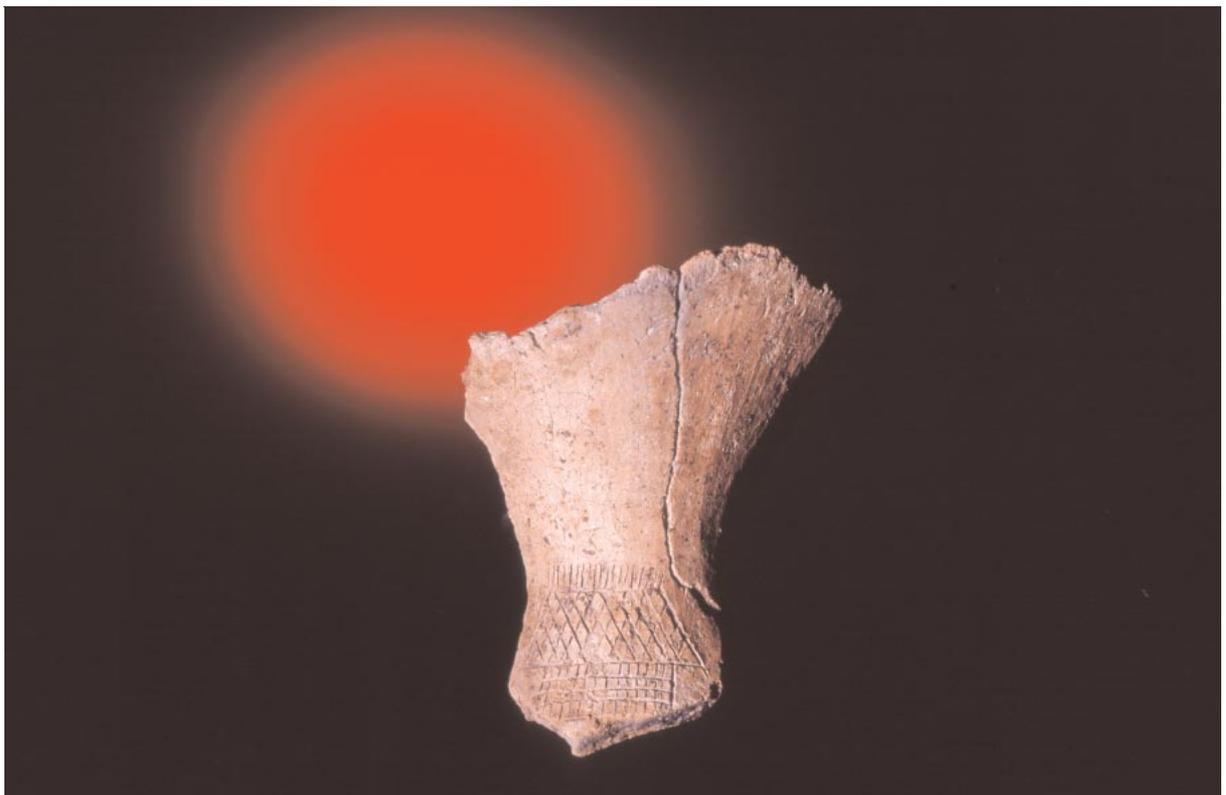
岩倉城跡は今城氏の旗下であった松浦将監の居城であるとされています。発掘調査では、建物を築くための平坦面である郭や郭上に築かれた掘立柱建物・柵列等の遺構を多数検出しました。出土品では土師器の皿や杯のほか、国内外の陶磁器が出土しました。青花の万頭心碗の出土は特にこの城跡の時期を示すものとして重要で、岩倉城が落城したとされる16世紀後半まで丘陵南東部の郭が継続的に使用されていたことが明らかになりました。

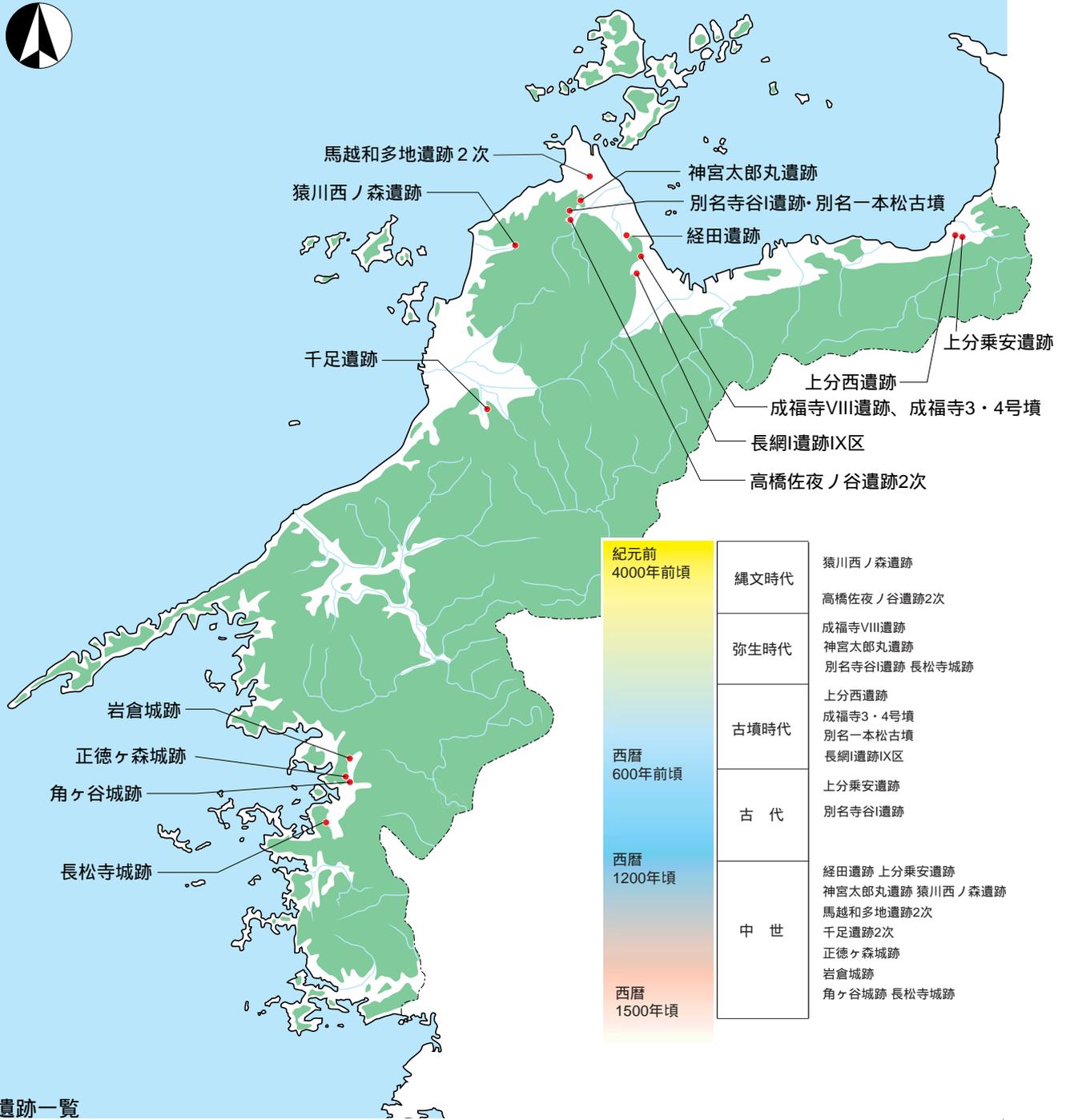
長松寺城跡では、平坦面である郭のほか、防御施設である土塁や堀切を検出しました。出土品には土師器の皿のほかに、国内外の陶磁器があり、発見された遺構や遺物から15世紀代の城跡であることが明らかとなりました。城の構造と規模から、小地域単位の戦闘の際に逃げ城として使用されたものと考えられます。



三間盆地の城跡

別名寺谷ー遺跡で出土した平地式住居を描いた絵画土器





展示遺跡一覧

遺跡名	所在地	調査期間	時代	事業者
上分西遺跡	四国中央市上分町	2005 4 11 ~ 2006 3 28	古墳時代	国土交通省(国道11号川之江三島Iⅴⅴ)
上分乘安遺跡	四国中央市上分町	2005 7 4 ~ 2006 3 28	古代・中世	国土交通省(国道12号川之江三島Iⅴⅴ)
成福寺VIII遺跡	西条市楠	2005 12 1 ~ 2006 2 13	弥生時代	愛媛県(孫兵衛作壬生川線)
成福寺3・4号墳	西条市実報寺・楠	2005 5 9 ~ 2005 8 25	古墳時代	愛媛県(孫兵衛作壬生川線)
長網I遺跡IX区	西条市実報寺	2005 9 12 ~ 2005 11 30	古墳時代	愛媛県(孫兵衛作壬生川線)
高橋佐夜ノ谷遺跡2次	今治市高橋	2005 9 12 ~ 2005 11 30	縄文・弥生時代	愛媛県(県道今治丹原線)
神宮太郎丸遺跡	今治市神宮	2004 8 10 ~ 2004 8 26 2005 4 11 ~ 2005 5 20	弥生時代・中世	愛媛県(県道今治丹原線)
別名寺谷I遺跡	今治市別名	2004 11 1 ~ 2005 3 25 2005 10 1 ~ 2005 11 30	弥生時代・古代	都市再生機構(今治新都市開発整備)
別名一本松古墳	今治市別名	2005 7 1 ~ 2005 9 30	古墳時代	都市再生機構(今治新都市開発整備)
馬越和多地遺跡2次	今治市馬越ほか	2005 7 11 ~ 2005 11 25	中世	愛媛県(浅川水系日吉川河川改修)
経田遺跡	今治市朝倉	2005 1 24 ~ 2005 3 18 2005 7 11 ~ 2005 11 25	中世	国土交通省(一般国道196号今治道路整備)
千足遺跡2次	伊予郡砥部町千足	2005 6 6 ~ 2005 9 2	中世	国土交通省(一般国道33号砥部道路整備)
猿川西ノ森遺跡	松山市猿川	2003 6 2 ~ 2005 11 30	縄文時代・中世	愛媛県(県道北条玉川線整備)
正徳ヶ森遺跡	宇和島市三間町務田	2005 7 2 ~ 2005 9 9	中世	愛媛県(県道広見三間宇和島線)
岩倉城跡	宇和島市三間町成家	2005 4 18 ~ 2005 10 31	中世	西日本高速道路株式会社(四国横断自動車道建設)
角ヶ谷城跡	宇和島市三間町務田	2006 2 6 ~ 2006 2 22	中世	愛媛県(県道宇和三間線)
長松寺城跡	宇和島市保田	2005 8 24 ~ 2006 2 17	弥生時代・中世	国土交通省(一般国道56号宇和島道路)